

通信小海

愛国心教育？



牧師 水草修治

疑問？疑問は持ちませんでした。小学校に上がる前から、戦争に行くこと天皇陛下のために死ぬことは、男として最高の名誉だと教わって軍国少年になっていましたから。・・・「戦争に行くことに疑問をもたなかったのですか？」という質問に対して、軍隊を経験した年輩の男性は「二つ答えられた。そして付け加えられた、教育はおそろいものですよ。」

このころ教育基本法の改変をめくって、愛国心と二つとはが「ユースで飛び交っている。なぜ今、愛国心教育などといったことが話題になってきたのだろうか。二つの要因がある。ひとつ

◆今月の御言葉◆

「あなたがたの間で、偉くなりたいと思う者はみなに仕える者になりなさい。」

マルコ福音書十章四十三節

は、現代社会の道徳の崩壊である。漫画家小林よしのりは言う、「日本は大東亜戦争で死んだ祖父たちを英雄とする物語を持ってなかったために、すべての価値が相対化し、少女は売春に、少年は殺人に走る国になった。だから道徳の回復には愛国の物語を回復せねばならない」と。しかし彼自身が、道徳無視のふしだらな性生活を誇っているのだから、説得力がない。

『愛国』を説く人々はどうもウサン臭い。昨年九月の選挙戦で「ホリエモンのような青年が登場したのは小泉改革の成果。」と持ち上げていた某官房長官が、今年になってホリエモンが逮捕されるや、なんと言ったか。同じ舌で「ホリエモンのような公德心に欠ける青年が登場したことは教育基本法の欠陥のせいであると考え、教育基本法改正をします」とペラペラ言明した。

政府が、愛国心を論じるのには、切迫するもつひとつの理由がある。それは戦争の備えである。冷戦後、米国は、各地の紛争に介入する

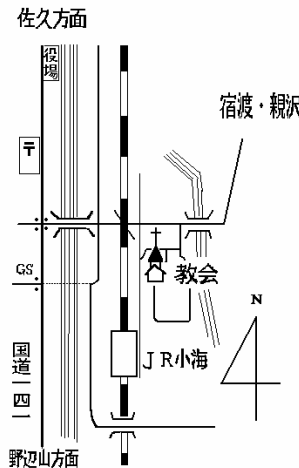
日本同盟基督教団小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三五五 二七

千三八四一一二 二六七九二四七七六

カンパ宛先〒振替005300 61683

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時四五分

朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日 祈り会 午前十時半と午後七時半

*海尻・川上で毎月家庭集会あり。

*個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

に介入するために、日本に金銭的負担だけでなく、軍事的負担をすることも求めてきた。「カネだけでなく血も流せ」と。そこで、今、政府は憲法九条を改変しようとしている。

しかし、実際に戦争に出かけ百人の戦死者が出れば、自衛軍志願者は減るであらう。そこで軍隊を維持するために必要となるのは徴兵制であり、徴兵制が支持されるのに必要なのは、お国のために死ぬことは最高の名誉であると信じて疑わない愛国心である。

むかし中国の伝説の名帝、堯はお忍びで出かけ、ひとりの老農夫に「帝の政治はどうですか？」と質問した。老人は、腹鼓を打ち大地をたたいて太平を楽しんで歌った。「日が出れば仕事して、日が入れば休み、井戸を掘って飲み、田を耕して食べる。帝の力などわしとは何の関係もない。」それを聞いて堯帝は「ここにこうしていたらいい。」

善政が行われている時代には、民は国のことなど意識せず、太平を楽しんで生活しているものなのである。国が民に重税をかけ、戦争に狩り出し、愛国心を説き、さらに厚かましくも家庭にまで口出しをしなければならぬというのはい、善政が行われていない

証拠である。

聖書は民が国の権威を尊重することを一方で教えているが、同時に、上に立つ者にはしもべとしての心がけを持つと命じている。「あなたがたの間で偉くなりたいたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。」

マルコ十四十三

福音指圧教室

畑が始まって、腰やひざにむりをかけていませんか。指圧でいたわりながら、よいスタートを切りましょう。

六月十八日(日)午後2時

持ち物バスタオル、タオル、くつした

海尻井出博彦さんち

で家庭集会

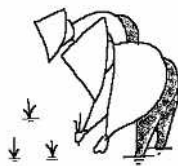
第一、第三木曜夜七時半から九時、聖書を読む会をしています。ご一報くださってお越しください。 96 2534

南相木でも家庭集会

* 二十二日(木)夜七時半から九時
* 日向中島悦子さん宅です。

* 家庭集会には牧師夫婦がでかけ、近所の人と聖書を読んだり賛美歌を歌ったりします。

田植え



野宿者による援農

不耕起栽培による古代米(紫米)の苗植えを五月二十七日、山梨県北杜市白州町で野宿当番者八人の手を借りて行いました。たくさん実るといいですね。

山谷農場事務局(藤田 寛)小海町芦谷ヒルサイドコーポ一 二号室毎週金曜・土曜は

おります。電話090・1436・6334

〒370-0422・7866・2088

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

カンパニ振替 一四 四五三七九六

はじめに神が



「初めに、神が天と地を創造した。地は形がなく、何もなかった。やみがたいなる水の上であり、神の霊は水の上を動いていた。

そのとき、神が「光よ。あれ。」と仰せられた。すると光ができた。神はその光をよしと見られた。そして神はこの光とやみとを区別された。神は、この光を昼と名づけ、このやみを夜と名づけられた。こつして夕があり、朝があった。第一日。」

創世記 一：一 五

むかし「神が世界を造られる前、いったい神はなにをしていたのですか?」とこつ質問をした人がいました。その人に対して、偉い先生は「そつこつ質問をする者のために地獄を造つていらした。」と答えたとか。

でも、聖書にはちゃんと答えが書かれています。神様は万物をお造りになる前、こつ自

身のうちで愛の交流をしていらしたので。主イエスは世界が存在する前に、父なる神とともに栄光に輝いておられ、愛の交わりをもつていらつしゃつたとおつしゃつています
(ヨハネ福音書十七：5、24)。

聖書は、唯一の神のうちに父と子と聖霊といつ三つの人格があると教えています。神は唯一であられるので絶対者です。もし複数の神々がいたらみな相対的な頼りない存在です。神と神とがけんかしてあつちが勝つたりこつちが負けたりするからです。でも、まことの神は唯一絶対のお方なので頼りがいがあるのです。

同時に、まことの神のうちには父と子が聖霊にあつて豊かな愛の交流をもつていらつしゃいます。もし神が唯一絶対であるだけならば、土から作られたちりのようなものにならぬ私たちにとつては、恐ろしいばかりでしょう。取り付く島がないでしょう。けれども、まことの神様は愛の交わりの神であられて、その愛があふれて私たちにも注がれてくるのです。

さて、三位一体の神様はあるとき世界を

無から造られました。その方法は、権威あることばによりました。「光よ。あれ。」とおつしゃると光ができました。「大空よ。水の間にあれ。」とおつしゃると大気圏が形成され、「天の下の水は一所に集まれ」とおつしゃると海ができ、「地は植物、種を生じる草、種類にしたがつて、その中に種のある実を結ぶ果樹を地の上に芽生えさせよ。」とおつしゃると、地は植物でおおわれました。

宇宙は永遠からあるものではなく、かつては無であつたと現代物理学も言っています。かつてこの世界は無でした。しかし今はどうでしょう。星星は秩序ある軌道を描き、地球は太陽の周りを自転と公転を繰り返して、私たちの国には四季が訪れ、植物が芽を出し花を咲かせ実を实らせ、動物たちも生の営みをしており、私たちもまたその秩序がある生命に満ちたこの世界の中に生かされています。

これらはかつては無でした。では、どうして今はこれほど見事に秩序をなし、うるわしい生の営みまでも許されているのでしょうか。偶然でしょうか? いいえ。三位一体なる神が、その権威あることばでお造りになったのです。

「幸福な家庭・子育て」

家族ってなんだろう



父の日

トトワイド キボンという歴史家は、諸国家の興亡を研究し尽くした結果、不況も戦争も疫病も国を滅ぼし尽くしてしまつてはならない。しかし、もしその国の社会を構成する家族が壊れると、その国はほんとうに滅亡してしまつた」と語っている。

確かに、聖書も国家について語る前に家族について語り、神が家族という単位をたいせつになさることを繰り返して語っている。世界を覆い尽くす大洪水が訪れるまえに、造り主はノアにこのように命じられた。「あなたとあなたの全家族とは、箱舟にはいりなさい。」と。また墮落したソドムの町が滅ぼされる前に、神は口下とその家族を危機から救い出すことなされた。神は、家族という共同体をたいせつになさるのである。聖書には「主イエスを

信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」といふことはもある。

ところで家族とはなんだろう？ ふつつ夫婦、父・母・子・孫といった血がつながっている身近な者たちを家族と呼ぶ。しかし、それだけで家族といえるのだろうか？

「おまえんちは本当の家族じゃないだろう。血がつながっていないからな。」M師はT君を里子として育てていたが、ある日、T君は学校でこんなことを言われて心痛めて帰つて来た。そのとき、M師は、「父さんと母さんだつて血はつながっていない。だけど家族だ。だからTだつて父さんたちと血はつながっていないたつて、ちゃんと家族なんだよ。」とT君に話されたそうである。

なるほど、そもそも家族の中心にいる夫婦は血がつながっていない。血はつながっていないが、神にあつて結ばれた家族の中心なのである。「それゆえ男は父母を離れ、妻と結ばれ、ふたりは一体となる。」と聖書にある。血縁である父母を離れ、神の御前で男女が結び合つて社会の最小単位である夫婦ができる。神の目の

前では血がつながっているかどうかということは、実は、家族としての必須の条件ではないらしい。

主イエスが二十歳になって伝道生涯にはいられたとき、母親や弟妹たちが、「兄ちゃん、頭がおかしくなった。」と思ひ込んで、兄ちゃんのイエスを家に連れ戻しにきたことがあった。その知らせを受けたとき、主イエスは次のように言われた。

「わたしの母とはだれのことですか。また、兄弟たちとはだれのことですか。」そして自分の周りに座っている人たちを見回して言われた。「御覧なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。神のみこころを行なう人はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」

家族が同じ方向を見て生きてゆけたらどんなに幸いか、けれど現代日本で家族が同じ方向を見ているのはテレビを見ているときだけだ、と嘆いた人がいた。ともに創造主であるまことの神を見上げ、神のみこころを行うこと、それが血がつながっている以上に大切な幸いな家族の秘訣なんだと主イエスはおっしゃるのである。